

「収録するという活動」と「収録対象活動」の関係

—収録終了の際に打たれるカチンコに注目して—

居關友里子 (国立国語研究所)

1. はじめに

私たちが日常生活の中で行っている言語使用や身体的振る舞いなどを明らかにするために用いるデータの一つに、その音声や映像を収録したデータが挙げられる。このデータを得る方法には、協力者に特定の振る舞いを指示し収録する方法や、協力者の普段の生活の一部に収録機材を入れさせてもらいそれを収録する方法があり得る。前者においては、そこで何らかの振る舞いを行うこととそれを収録することが実験という一つの活動に組み込まれている。では後者の場合はどうだろうか。本研究ではここに「収録対象となっている活動 (以下「収録対象活動」)」とその「データを収録する活動 (以下「収録活動」)」という二つの活動が生じていると捉え、二つの活動の性質および互いにどのような関係を成しているのかについて考察を試みる。注目するのは収録終了の合図「カチンコ (後述)」周辺における参加者の振る舞いである。

2. 研究の背景

収録されたデータで行われていることを収録対象活動のみではなく収録活動の側面からも捉えるという観点が取り上げられる一例として、データ内における参加者の振る舞いの自然さについて考慮する場合が挙げられる。収録が収録される者たちにどのように意識されるのかは、分析でのデータの扱い方を検討するに際し重要な要因である。また別の関心として、同時に生じている二つ以上の活動をやりくりする相互行為的振る舞いそれ自体に関心を寄せた研究も近年盛んになされている (Mondada, 2011 ほか)。ここではそれらの活動に向けられる注意を都度適切に配分し活動を進行させていくやり方について明らかにされてきている。収録対象活動と収録活動という二つの活動が同時並行的に行われているという点からは、収録されたデータに納められているのもこのようなマルチアクティビティ状況の一つに位置づけることができると考えられる。以下では扱うデータについて簡単に説明し (3 節)、収録対象活動と収録活動の進行がどのようにやりくりされているのか事例を用いて示し (4 節)、その他データ全般の観察から得られた情報を加えながら考察を行う (5 節)。

3. データ

扱ったデータは国立国語研究所で現在構築中である『日本語日常会話コーパス』のデータ収録に際し得られたものである¹。協力者が日常で行っている会話場面に録音機材を持ち込み、設置や操作、参加者への説明など一連の手続きを会話に参加する一人である協力者²が自ら行う。以下で取り上げるのは協力者 8 名 (30, 40, 50, 60 代男女各 1 名) によって収録された計 77 回分の収録データの、収録終了前後のやり取りから抜き出したものである。収録終了を見出すに際し参考にしたのが、協力者が収録の開始と終了の際にカメラに映るよう手を叩く動作である。以下「カチンコ」と呼ぶ。この際に生じる音と映像は、収録された複数メディアの時間情報を揃えるために用いられる。カチンコを会話の開始と終了で行うことはコーパス制作者側が要請し、その具体的なタイミングは協力者が決定している³。

4. 観察

4.1. 収録対象活動の進行に対する干渉を避けたカチンコ

まず一例を取り上げ、収録活動に関わる振る舞いであるカチンコがどのようになされているのか見てみたい。抜粋 1 は協力者 I が診療を受けるために N のもとを訪れ診療後に雑談している場面の収録終盤である。

【抜粋 1】 T004_006 協力者: I

01 I: ぶちぶちぶちぶち <こぼす>わけ:.° =
02 N: =ん:h hh
03 (0.4)

¹ 分析対象の一部にはコーパス格納対象外のものも含む。

² 以下ではコーパス製作者から依頼を受け収録を任されている者を「協力者」、それ以外のデータに映っている者たちを収録への「参加者」と区別しておく。

³ 一回の収録時間の上限は一時間程度とされており協力者はこれを一つの目安として参照することもできるが、より短い・長い収録も存在している。

04 N: 難しいね.=ちようどいいっ[つうのがなかなか:諦] めがなかなか[>つかない\hh]
 05 I: [° 難 し :. °] [つ か な: い]=
 06 I: =タ:イブ[::+ほんっと]にね[: 嫌 ん]なっちゃう.
 07 N: [hh . hh . hh] [¥う:ん. ¥]
 I +掛け時計に視線→
 08 (0.4)*(1.2)*(0.6)
 N *時計に視線*
 09 I: [° あも*う°]
 10 N: [う : : ん.]
 I >—————*中空(カメラ?)に視線→
 11 (0.6)
 12 I: 大丈夫です三十分.
 13 N: はい.
 14 I:▶ ((カチンコ))
 15 I: あ*りがとうござい↑ま[した.]
 I >—*
 16 N: [い い]え.
 17 ((承諾書等の記入に関するやり取り))

I は抜粋以前から自身の親族に関する困り事について語っていた。I が発話のテンポを落としながら顛末を語り終えた(L01)のを聞いたNは、I が語った問題について「難しい」と評価し語りから得られた(Iの親族の)心情を「諦めがつかない」ものとして理解したことを示す(L04)。この評価と理解の表示は、Iによるキーワードとなる言葉の繰り返しやユニゾン(L05)によって強く同意されている。Iはユニゾンの部分を連体節として取り込む形で順番を継続し、問題に対する心情「嫌になる」によって語りの性格を念押ししまとめている(L06) Iこのまとめを発話する最中、Iは背後の壁に掛けられた時計に視線を移動させそれをしばらく見つめ、それを追ってNも時計に視線をやる。長めの沈黙の後、Iは発話を開始しながら視線を時計から離し(L09)、必要に足る収録が行われたことを宣言しカチンコを打つ。

ここでは収録対象活動で行われていた語りが十分理解し合われたことを示しながらまとめ、その終局に重ね合わせながら時計に視線を向けることで収録対象活動と収録活動の両者に対する志向を分散させ(Depperman et al, 2010)、収録活動へ志向を移行させている。Nは新しい発話を開始するのではなく受け入れの反応によってIの出方を待つことで(L10)、Iの先導に沿って収録の終了を受け入れている。

抜粋1ではこのように収録対象活動から収録活動に注意を移行させることによって生み出された空間で、余裕を持ってカチンコが打たれている。時計を見ることのほかにしばしば観察されたのは、収録機材(カメラ)の覗き込みである。いずれもモノそれ自体だけではなくそれに関わる活動への注意が喚起され、活動移行の機会を生んでいる(Sutinen, 2014)。

カチンコを打つタイミングとして選ばれている箇所として、抜粋1のほかに次のようなものが観察された。一つは収録対象活動の終了と同じ箇所(事例2)である。事例2は組み立て式の棚の完成に合わせて、カチンコが打たれている。

【事例2】T001_002 協力者:A

01 Y: [まあいいんじゃない?((棚を叩いて安定を確かめる))
 02 A: [はい。
 03 A: はい。[h:~::~:じゃあお疲れさまで[した。
 04 Y: [うん。 [はい。
 05 A:▶ ((カチンコ))

【事例3】T002_020 協力者:N

01 M: ((自身が点てたお茶をNに渡しNが撮影する))((Nから返却された茶碗をGの前にある布の上に丁寧に置く))
 M G >茶碗に視線→
 02 G: は:~:ありがとうございます。す。いただきま:す。わ:い。や(.)もう別にねえh[h [h]h
 03 N:▶ [*(カチンコ)*]
 N *Mに視線—————*機材の操作→
 04 M: [↑h h h]h h h h
 05 G: まほんとはこうなんか(.)やるらしいんですけど[:. ((布を茶碗にあてたまま持ち上げるながら))
 06 M: [あそうなんですか。

抜粋3は三名で茶会を楽しんでいる場面である。抜粋1, 2は進行中の収録対象活動の切れ目でカチンコが打たれているのに対し、ここでのカチンコは参加者の笑いと重なって行われている。ここではMの点てたお茶がGに供されており、二人の注意はGの目の前に置かれた茶碗に継続して向けられている。GがMに向けて挨拶し解説を始めたところで、協力者NはMの反応をうかがうように視線を向けながらカチンコを打つ。GとMは視線をお茶に向けたまま、お茶に関するやり取りを継続している。ここでのカチンコは収録対象活動で進行中の行為を遮るタイミングでなされてはいるものの、その妨げにはなっていない。お茶を点てた者、それを供される者との間に相互行為の焦点が生じ始めたときに、そこから抜け出すことができることを利用してカチンコが打たれているといえる。

抜粋1-3はそれぞれ異なる位置ではあるが、いずれも収録対象活動の進行に干渉しないようカチンコがなされているという点で共通しており今回観察したデータの多くにこのような志向が見出される。

4.2 収録対象活動を差し止めてなされるカチンコ

一方で、収録活動が優先され収録対象活動がこれに行為の進行を譲る例も観察された。これは収録対象活動に対して収録活動をやりくりすることが困難な状況に生じている。

【抜粋4】 T001_019 協力者:A

- 01 M: だかー今治タオルみたいで、そうやって.hh あh これは価値があるってあたしは(.)思うのやっぱり.=
 02 A: =なんで思うんですか?
 03 M: や(h)っぱりタ[オー (0.4)ぜんぜん違]う.触[り心地が.]
 04 C: [((アラーム))]
 05 A: [あ:あ:終]わっちゃった.
 06 (0.2)
 07 M: [うん.
 08 C: [((アラーム))
 09 A:▶ ((カチンコ))
 10 A: °は::°
 11 M: ↑は::い.
 12 A: はい.
 13 M: *うん.
 M *↑に視線→
 14 (2.8)
 15 A: さわり心地が違*[う.
 16 M: [う:ん.で[.hh]例えば<その土もいい物(.)いい土壌がいいんだらうけれ[ど、((以降継続))
 17 A: [うん. [°う:ん.°
 M >—————*

抜粋4は収録機材(ビデオカメラ)の充電切れを示すアラームに先導されてカチンコがなされている例である。協力者Aと妻(抜粋中に発話なし)、妻の母Mが三名で飲食しながら団欒する様子を収めたデータである。抜粋以前ではAとMの二人が「本当に質の良いものの価値が消費者にどの程度理解されるのか」について意見を交わしており、01行目でMは価値を理解できるものの例(今治タオル)を提示し始める。Aはその理由について説明を追求し(L02)、Mがこれに答えようとしたとき唐突にアラームが鳴る(L03)。Mはアラームが聞こえた直後に一旦発話を止め、要点を切り詰めた形に発話の軌道を変えて順番を完結させる。Aが仕掛けた追求にMが答えたとき適切になるのはAがそれに対する反応を示すことであるが、しかしここでAはアラームに対する反応を示し(L05)Mへの反応は一切示さない。議論を差し止めることで生じたこのスペースでなされたカチンコについては収録活動に生じた区切りは、11行目の高いピッチ、平板調で産出された「↑は::い」という発話によってMに承認されている(青柳, 2001)。

この状況では収録活動が収録対象活動に優先して対処されているが、カチンコ以降で収録対象活動を引き戻す振る舞いが見られる。Mによる低いピッチでなされた「うん。(L13)」は11行目の明るい調子とは対比的であり、7行目でなされた順番終了をマークする発話を繰り返すものとして聞かれ、またAの反応を待つように視線を向けている。そしてAによる03行目の発話の要点の繰り返し(「触り心地が違。(L15)」)は03行目の発話への反応として聞かれ、03行目以降でMが行おうとしていた発言を15行目の次の位置で行うことを適切にする。実際にMは16行目以降で自身の主張を述べる発話を再開する。ここでは一旦収録対象活動の流れが差し止められ収録活動が優先的に対処されるものの、収録対象活動の続きを促す、それに応じて再開するという振る舞いによって、収録活動は収録対象活動の間に挟まれたものとして扱わ

れている。

5. 考察

4.2節で見たのは4.1節で見た例と異なり、協力者・参与者たちの関係性のもとに普段から行われていた収録対象活動の構造を損ねる形でカチンコがなされた例である。その一方で収録活動が挟まれたものとして扱われるやり取りが生じている抜粋4は収録対象活動の日常性を捉えたデータのようにも見える。4.1節で取り上げたような収録対象活動に干渉しないようカチンコがなされる事例ではカチンコの直前に「一回止めます」「一旦切るね」など、収録活動が挟まれたものでありその後収録対象活動（であったもの）が継続することを示す表現が異なる協力者から頻繁に観察される。収録活動を収録対象活動に挟まれたものとし、収録終了後再び収録対象活動に回帰することは、この場の基盤を成しているのが収録対象活動であり、またこれが収録活動とは独立の動機に基づいて行われていたことを遡及的に示すことになり得るだろう。これは4.1節で見た収録対象活動の進行を極力損ねないようにカチンコを打つ振る舞いと整合的であると考えられる。

収録活動は一度開始してしまえばそれ以降は特別な注意を割かずとも進行させることが可能であり、収録中は副次的関与 (Goffman, 1963) で十分である。もっといえば特別な注意を割かないことが求められているということができるかもしれない（収録の際依頼者がよく行う教示に「普段どおり話してほしい」というものがある）。今回扱ったデータのカチンコ以降には「自身の振る舞いについて振り返り、問題がなかったことを確認すること」であったり「収録中に話すことができなかった話題について言及する」などといった行為が観察された。これらは収録活動に主要関与を向けることを控え、収録終了まで前景化させるのを待っていたことを示す振る舞いであると考えられ、ここには収録活動に副次的関与をあてがおうとする協力者・参与者の志向が伺われる。そして収録対象活動に主要関与を配分することは、収録活動を副次的関与として維持する一般的なやり方であると考えられ、収録活動は収録対象活動に寄生することによって適切に社会的に求められる関与を成り立たせていると位置づけることができるのではないだろうか。収録活動は「支配的関与」と「副次的関与」という関与の配分の特徴を持つ活動であると考えられる。

6. おわりに

本研究では収録データで行われていることを収録対象活動と収録活動の二つに分けて捉え、両活動の性質と関係性について考察を行った。最後に、はじめに見た抜粋1を振り返ってみたい。ここでは時計に対し注意が向けられることで、収録対象活動を妨げずにカチンコを打つことが可能となる機会が余裕を持たされてつくられていた。この時計を見るという行為を一定時間続けることで収録活動への主要関与が強く示され続けることは、本来主要関与を向けられるべきである収録対象活動の性質を変更させてしま得る。その結果収録活動の要請に沿って収録対象活動が行われている、会話が引き伸ばされているといった理解が生じ得、抜粋1はそのような可能性と隣り合っているようにも観察される。今回見てきたカチンコは収録対象活動を損ねないように、しかし収録活動に注意を向け過ぎずに行われることが求められる、単純なようで実は難しい注意の配分を求められる行為であると考えられる。

謝辞 本研究は国立国語研究所の共同研究プロジェクト「大規模日常会話コーパスに基づく話し言葉の多角的研究」の研究成果を報告したものである。

参考文献

- 青柳にし紀 (2001). 「はい」と「ええ」の意味・機能—音声、イントネーションの視点から—. 信州大学留学生センター紀要(2), 信州大学留学生センター. pp. 23-34.
- Deppermann, A., Schmitt, R. & Mondada, L. (2010). Agenda and emergence: Contingent and planned activities in a meeting. *Journal of Pragmatics*. (42)6, pp. 1700-1718.
- Goffman, E. (1963). *Behavior in public places*. New York: Free Press of Glencoe. (丸木恵祐・本名信行訳 (1980). 集まりの構造：新しい日常行動論を求めて. 誠信書房.)
- Mondada, L. (2011). The organization of concurrent courses of action in surgical demonstrations. In Streeck, J., Goodwin, C. & LeBaron, C. (Eds.). *Embodied interaction language and body in the material world*. Cambridge: Cambridge University Press, pp. 207-226.
- Sutinen, M. (2014). Negotiating favourable conditions for resuming suspended activities. In Haddington, P., Keisanen, T., Mondada, L. & Nevile, M. (Eds.). *Multiactivity in social interaction: Beyond multitasking*. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamin, pp. 137-165.